

# 千西一遇

第79号  
発行  
2021年  
4月19日(月)  
上田西高校  
新聞委員  
編集

編集局長:堀内日菜子  
新聞委員長:橋爪こ菜

林 優衣  
櫻林 生成  
辺見 咲良  
藤田 珠寿

生徒会広報  
滝沢 凜花  
清水 舞子

協力  
宮島 純夏  
奈良本 梓

## エース山口162球の熱投 試合は両者譲らず投手戦に

# 上田西あと一歩及ばず

## 第93回選抜高等学校野球大会1回戦

上田西 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
広島新庄 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 延長12回



11回表、この日2本目となる左前打を放つ主将の柳澤 写真撮影=清水舞子(生徒会広報)

戦評 3月23日(火)に行われた第93回選抜高等学校野球大会4日目第3試合で上田西は広島新庄と対戦。延長までもつれ込むロスゴアの接戦は、広島新庄が制した。上田西は初回から得点圏に走者を進めるなどチャンスを作ったが、好投手相手に自慢の強力打線が機能しなかった。5回表には藤牧が左翼フェンス直撃の2塁打を放ちチャンスを作るも得点できず。続く6回表には無死1、2塁のチャンスを作ったがこれも得点には繋がらず0対0のまま試合は延長戦に突入した。12回裏、2死1塁からエース山口謙作(進学3年)神奈川・豊が投じた162球目が広島新庄の4番花田に捉えられ、広島新庄のサヨナラ勝ちが決まった。敗れた上田西は、打線が相手を上回る8安打を放ったがあと1本が出ず、力投したエース山口を援護できなかった。(堀内日菜子)



162球の熱投を見せた上田西のエース山口 写真撮影=奈良本梓

選抜甲子園に出場するにあたって主将の柳澤樹(進学3年)丸子はチームの課題の一つに「守備のミス」を挙げた。その課題解消のために、「3月に入ってから実践的な練習を増やし、守備を強化する練習を行ってきた」と話す。「冬練の成果もあってか、一つ一つのプレーが強くなった」と柳澤。その手心を通り、チームは甲子園で無失策と練習の成果を發揮して見せた。

10回裏には左中間への大飛球を9回から途中出場の大藪知隼(進学2年)丸子がダイビングキャッチ。チームを救ったライナープレーを見せた大藪は選抜前の練習試合で「大事な日の投球の組み立てについて振り返った。山口の力投と粘り強

甲子園が控えているのにチームに迷惑をかけてしまった」と話すように我慢プレーによって途中交代となっていた。その時の借りを返す形となったファイナルプレーについて「いつ飛んできていいように心の準備はしていた。チームに貢献できればいい」という思いで試合に臨んだ」と力強く話した。左打者が多く並んだ広島新庄打線に対して、左腕の山口は「試合前の投球でキレと曲がり

がよかったから小川と話してスライダー中心の投球にし、内野ゴロや三振を打ち取ることを目標に掲げた」とこの日の投球の組み立てについて振り返った。山口の力投と粘り強



ダイビングキャッチで会場を沸かせた大藪(写真下) 写真撮影=奈良本梓

い守りにより、試合は白熱した投手戦となったが、上田西は惜しくも延長12回、広島新庄に0対1でサヨナラ負け。その時の心境をエースは「それまで打者が1点入れてくれるのを待っていた。失点は0で抑えることを目標に投げていたのにあのような形になってしまったのは悔しい」と話し、バッテリーを組んだ小川隼弥(進学2年)春寛は「2死を取ってから1本打たれ、自分の油断もあった。もう少し考えないといけないな」とそれぞれ悔しさを滲ませた。(堀内日菜子)

選抜出場校中トップの打率を誇った上田西の強力打線は広島新庄の2枚看板を攻略しきれなかった。5回表に藤牧虹凱(進学3年)佐久東が「風に乗ってボールがどんどん飛んでいったのでびびくりした」と話した左翼フェンス直撃の2塁打を放つなど随所にらしさを見せたものの、12個の三振を喫するなど繋がりも欠いた。打線は広島新庄を上回る8安打を放ったがチャンスとあと1本が出なかった。(橋爪こ菜)



5回表、左翼フェンス直撃の2塁打を放つ藤牧 写真撮影=櫻林生成

# アルプスには総勢460名の応援団



アルプススタンドから選手に向けて応援を行う上田西応援団の様子 写真撮影＝滝沢凜花(生徒会広報)

雨天の影響により、試合日程が1日順延となった影響で全校でのパブリックビューイングでの応援が中止となったが、翌日に、生徒会役員、応援委員、サッカー部をはじめとする有志によるパブリックビューイングでの応援が実現した。集まった生徒は緊張した面持ちで試合を見守りながらも、選手の好プレー時には大きな拍手と笑顔がみられた。

5回終了後の取材でサッカー部員の3年5組野崎太輝さんと3年3組磯崎さんは「たくさん点を入れて盛り上がる試合をしてほしい。ホームランを期待する」と話した。惜しくも広島新庄に敗れたものの粘り強く戦った野球部に対し、生徒会役員の3年6組宮島咲希さんは「いい試合だった。夏の大会に向かって頑張りたい」とエールを送った。



学校で行われたパブリックビューイングの様子 写真撮影＝林優衣

前回の夏の甲子園出場時(2015年)は観光バス約60台体制で組まれた応援体制も新型コロナウイルスの感染防止のため今回は縮小され行われ、野球部保護者、OBら460人がアルプススタンドに応援に駆けつけた。

試合中は事前に収録された吹奏楽部の演奏と共に野球部員の太鼓やメガホンを叩く音が会場に鳴り響いた。選手がヒットを打った時やエースの山口がストライクを投じた際には多くの拍手が聞こえた。コロナウイルスの影響で思う様に行動がままならない中ではあったが、拍手などを用的大舞台で活躍する選手達にスタンドからエールが送られていた。

父杉浦謙一郎さんは、「選手が全力を出し切りホームランを打って活躍している所を見たい」と試合前に笑顔で語った。野球部OBの三富彰也さん(令和2年3月卒業)は注目選手に「主将の柳澤」を挙げ、「チームに貢献している所や、序盤からガンガン打って相手を倒すところが見たい」と話していた。

試合には惜しくも敗れてしまったが、野球部保護者会長の片平知之さんは「選手達の悔しさを晴らす夏の大会出場のチャンスがある。もう一度甲子園という舞台に忘れ物を取りに帰って欲しい」と選手達に向けて期待を込めて話した。「長野県大会を制するよりも大変なことをやり遂げてくれた。本当に凄いことをやってくれた」と続け、北信越地区という激戦区で選抜出場を掴み取った選手たちを労った。

## 甲子園 春夏連続出場を目指し再始動



春夏の大会で雪辱を誓う笹原 写真撮影＝宮島純夏

選抜では惜しくも1回戦で敗れてしまった上田西高校だが、甲子園での反省を生かした次の目標に向かって進み始めている。好投手相手に、強みである打線が機能しなかった点について柳澤主将は、「バッティングは調子によって色々変わるんで打てなかったのは仕方ない分もある。しかし1点を取れる場面でのチャンスを無駄にしてしまった点が課題」と振り返った。試合前から上田西のキーマンとして注目されていた笹原操希(進学3年II裾花)は、「2安打と存在感を見せたが、2回のヒットを打てたことは良かったが、打ってれば勝利していたかもしれない場面でも三振してしまっ」と悔しさを滲ませ、甲子園での自身のパフォーマンスを振り返った。

目前に迫った春季大会と3カ月後に控える夏の選手権大会に向けての意気込みについて柳澤主将は「また甲子園に行けるように、そして勝利を勝ち取るようにやっていきたい」と決意を新たに話した。最近の練習試合4試合で5本のホームランを打つなど好調



春夏の大会に向けて練習に励む選手たち 写真撮影＝橋爪ここ菜

を維持している笹原は、「チームが勝つことが一番。それに少しでも貢献出来るように練習に集中したい」と力強く話した。広島新庄戦で162球を投げきったエース山口は、「春は県内に負けないようなチーム作りをして、夏は優勝してあの場所に戻って自分がチームを勝たせられるような」と具体的な目標を語った。

また保護者会長の片平さんは選手達に向けて「1人1人が自分の役割に責任を持ち、おごらず、素直で謙虚に夏の県大会まで準備をしてほしい。応援している」と期待を込めてエールを送った。春季東信大会は4月29日(木)〜春季県大会は5月15日(土)〜春季北信越大会は6月5日(土)〜それぞれ始まる。夏の全国高等学校野球選手権長野大会は7月3日(土)から。

(林優衣・堀内日菜子)